



子どもの読書活動優秀実践団体／文部科学大臣表彰受賞  
狭山市地域文庫連絡会

## 狭山の元気 発見



自然に本が好きになるように  
子ども達の周りにたくさん本がある、そんな環境を作りたい

小さいころ、両親から読んでもらった、思い出に残る自分だけの「一冊の絵本」。そんな本の出合いを持つ人は、少なくないと思います。

子ども達に、本と出会うきっかけ作りをしている地域文庫が市内には6か所あります。あおやぎ文庫(まるた小屋)、狭山台おはなしのろっこく(狭山台公民館)、河原文庫(第三児童館)、ふれあい文庫(狭山グリーンハイツ集会所)、ふじみおはなし会(富士見公民館)、ちいさい文庫(自宅・中央)では、いずれも本の読み聞かせや手作り遊び、お話会など、本を読む楽しさを提供する活動をしています。

昭和51年に設立された狭山市地域文庫連絡会は、それぞれの地域文庫の連携を図り、総合的に読書活動を普及するため、独自に図書の出し入れやお話会、講演会の開催、図書館事業への協力など、子ども達への読書活動を積極的に行っています。毎年テーマを決めて、親子で楽しめる本、読んでもらいたい本を

紹介するブックリストを作成し、中央図書館で11月に開催する「ぶんこ祭り」で配布しています。

このリストに載せる本は、それぞれの地域文庫が持ち寄るのですが、どれもみんな思い入れがあり、全ての本に目を通して最終的に40冊程度に絞り込む作業が大変です。最近、子どもだけでなく大人も楽しめる本が増えてきています。ぜひ、このリストを参考にして、子どもと一緒にたくさん本を読んでください」とリストに込めた思いを語ってくれました。



市長に受賞の報告した会の皆さん

「私達は、読み聞かせているわけではなく、本を好きになつてもらえるように、お手伝いしているだけ」と言い切る連絡会の皆さん。4月23日(子ども読書の日)これまで活動が認められ、文部科学大臣から表彰を受けました。

「読み聞かせをしているとき、子どもがふと話したことが、自分で思っていたことと同じだったとき、そんな時間を共有できたことがうれしく、活動を続けられたのかもしれない。ともかく子ども達といることが単純に楽しいんです」と、活力の源を話してくれた皆さん。そして、よ

活動は、すぐに結果が現れてこない地道な取り組みですが、たとえ何人かの子ども達にでも読書の楽しさが分かってもらえればうれしい」と受賞の喜びとともに熱く語ってくれました。

子どもが本を読んでもらうとき、それは本の楽しさと一緒に、読み手の愛情が、ぬくもりと優しい声になって子どもに届いていきます。読んで！読んで！と言われる幸せを逃さないで、今しかないこの貴重な時間を皆さんも大切にしてください。



小川路代さん  
(下奥富在住)



橋のほぼ中央にある記念碑

奥富地区柏井自治会は、市内を流れる入間川の最下流に位置しています。田園地帯で区域は広いのですが、戸数は市内の自治会で一番少ない41世帯で、20年以上増えていません。そのため、全会員が顔見知り、団結力が強いのが私たち自治会の特長です。

入間川をはさんで西武文理高校などがありますが、その一帯は昔、雑木林で、冬になると農家には欠かせない落ち葉はきくず(はき)をしたところでした。私たちの地区に住んでいた農家の人たちが川を渡るために協力して架けた橋「くずはき橋」。昨年、柏原新狭山線の開通で取り壊されましたが、現在、入間川大橋にある記念碑にそのいわれが刻まれています。

これからの季節 スズメバチに注意  
正しい対処方法を知ること必要

先日、私が洗濯物を干しているとき、数匹の大きな蜂が体の周りに飛んできて、刺されないかと怖い体験をしました。以前私の知り合いの子どもが、スズメバチに刺されたことがあり、毎年これからの時期になると新聞やテレビなどで蜂に刺された報道を耳にします。

子どもが小さいため、よく公

園などで遊びますが、蜂が飛んできたときは危険を感じます。しかし、ただ怖がっているだけでなく、正しい対処方法を知ること必要だと思います。安全な地域環境を作っていくことは大切なことですが、それと同時に蜂も、人間と同じように大切な自然の中で生きていくということも考えたいと思います。

市の考え方  
貴重な意見をいただきありがとうございます。5〜6月になるとスズメバチなどの活動が活発になり、巣を作る時期に入ります。危険でなければ、そのまましておくのがよいのですが、最近は、人家のすぐ近くに巣を作ることも多くなり、放置できない状況も見掛けられます。

市では蜂の巣を撤去するための防護服と蜂専用スプレーを無料で貸し出し、業者などの紹介も行っていきます。しかし、種類によっては庭木の葉を食べる青虫などを捕食してくれます。ご意見のようにむやみに駆除するだけを考えず、蜂も自然の生態系の一員という意識を持ちたいものです。

担当 生活環境課

広報課に皆さんの声をお寄せください。必ず住所、氏名、電話番号をご記入ください。 ☎299546262代  
Eメール koto@city.sayama.saitama.jp

## Assistant Language Teacher



Michael Odediran  
マイケル オディディラン  
(堀兼中学校勤務)

ナイジェリア出身  
狭山市のALTとして2年めの勤務  
趣味は海でダイビング

The other day, I was surprised but very impressed to learn that there is an all English elementary school in Nagano prefecture. Some of them even made speech in English about their future goals and aspirations. This should be a reminder to all the kids in school now that ability to communicate in English is one of the major skills you need to have for the future. This is what I am also doing with my son, Oliver who is only 5 month old now. I use English only to talk to him and my wife talks to him in Japanese, with the hope that he would be able to communicate in both languages. Go for it in your English studies. Good luck!!!

先日、長野県に、授業などすべて英語で取り組む小学校があることを知り、驚き感動しました。さらに何人かの児童は、自分の将来の目標や大志について英語でスピーチをしていました。英語でコミュニケーションできる能力は、将来必要となる重要な技能の一つです。私は、オリバーという名の5か月の息子がいますが、日本語と英語でコミュニケーションがとれるように、私が話すときは英語だけを使い、妻は日本語で話しかけています。皆さんも英語の勉強をがんばってください!!幸運を! (英文の要約)